

## 中新統津具層の古地磁気からみた中部日本の中新世テクトニクス

## Miocene tectonics of central Japan viewed from the paleomagnetism of the Miocene Tsugu Formation

# 星 博幸[1], 佐野 正和[2]

# Hiroyuki Hoshi[1], Masakazu Sano[2]

[1] 愛知教育大・地学, [2] 愛知教育大・地球環境

[1] Dept. Earth Sci., Aichi Univ. Educ., [2] Dept of Environmental Earth Sci., Aichi Univ. Educ.

<http://ggamma.earth.aichi-edu.ac.jp/~hoshi/>

東海地方に分布する中部中新統(設楽層群津具層)の古地磁気を調査した。講演では、測定データを提示し、屈曲構造西翼の形成過程について議論する。

中部日本における地体帯状構造の大屈曲がいつどのように形成されたのかを明らかにする目的で、筆者らは、屈曲西翼側の愛知県東部 - 長野県南部に分布する中部中新統(設楽層群津具層)の古地磁気を調査した。

津具層は無斑晶質玄武岩や斑状安山岩などからなる地層で、愛知県東部 - 長野県南部に点在する。第三系設楽層群の最上部層で、15 Ma 前後を示すいくつかの K-Ar 年代値が報告されている。変質はわずかで、新鮮な火山岩試料を採取可能である。散点的な分布で、しかも火山岩からなるため、地層傾斜を知るのは容易ではない。そのため、筆者らは試料を採取した地点周辺において、津具層とその基盤の地質も調査した。

16 地点から残留磁化測定用の試料を採取した。試料採取には携帯型エンジンドリルを用い、1 地点につき 6 本以上のコア試料を採取した。ドリリングが不可能な場合はブロック試料を採取した(1 地点 3 または 4 個)。実験室で測定用試料を切り出し、各地点につき 6 個以上の測定用試料を用意し、それらすべてについて段階交流消磁または段階熱消磁をおこなった。

本講演では、測定データを提示し、屈曲構造西翼の形成過程について議論する。